

地小出版
方小版

情報誌

アクセス

毎月1回	1日発行
購読料	定価 150円 (本体 143円)
	年間 1,500円 (税込み)
振替	00120-0-19017

発行所 (株)地方・小出版流通センター
編集 アクセス編集委員会

〒162-0836 東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

筑豊炭坑絵巻 新装改訂版の発行

山本作兵衛の炭坑画の意味を、今一度問い直したい。

文・海鳥社 西俊明

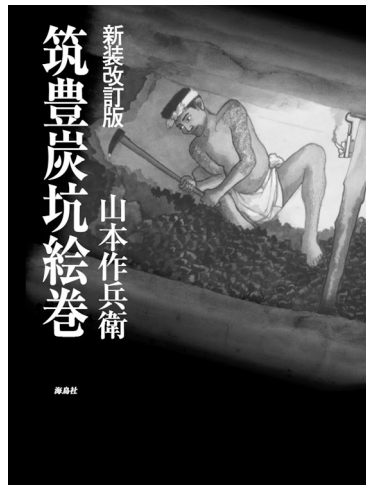
ようやく『筑豊炭坑絵巻 新装改訂版』を出すことが出来た。制作にあたり、現在の小社で出来るかぎりのことはやったと、少しほっとしている。

田川市の石炭・歴史博物館、福岡県立大学所蔵の炭坑絵画589点と、記録ノート・雑記帳・日記・原稿など108点の計697点がユネスコ「世界記憶遺産」に認定されたのが5月20日だった。私は葦書房にいた頃『王国と闇 山本作兵衛炭坑画集』を車に積んで、筑豊の書店を走り回った日を思い出しながら、せめて品切れの『筑豊炭坑絵巻』は再刊の必要があるだろう、とは思ったが、それは、福岡のどこかの出版社でやればよいというぐらいのことであった。

その後、山本作兵衛さんの日記を解読している森山沾一教授(福岡県立大学)と話す機会があった。山本作兵衛炭坑画をめぐるさまざまな動きを聞くと、いろんな動きはあるものあまり具体的ではない。『筑豊炭坑絵巻』を復刊するチャンスでは、というと、「海鳥社が出すのなら協力しますよ」と言われる。

書店からも、どうするのだと電話が入る。地元の新聞社の文化部からは「作兵衛さんの炭坑画の出版のいきさつなどを話を聞きたい」と電話が入った。「それは僕ではなく」と断ろうとすると、「何も知らない若い人達に話してほしい」と。気楽な私にお鉢がまわってきたんだと判断して、ビールでも飲みながらということになった。

山本作兵衛さんの人と作品を評価し、世の中に出す努力を傾けられたの



は、当時、田川図書館館長であった永末十四雄氏であり、作家の上野英信氏、そして画家の菊畑茂久馬氏、田中直樹先生(炭鉱史・日大教授)であった。

永末十四雄氏、上野英信氏も亡くなって久しい。若い文化部の記者たちは当然の事として永末さんや上野さんに会ったことはない。問われるままに知っていることを話すのだが、知っていることといっても半分は私も聞いた話なのだが。しかし、彼らは『筑豊炭坑絵巻』や本格的な画集である『王国と闇』を見たこともないという。

『王国と闇』の出版は1981(昭和56)年、『筑豊炭坑絵巻』の最後の刷りが出たのが1985(昭和60)年である。25年という時間が過ぎているのだ。彼らが知らないのは当然といえば当然である。

すっかり酔っぱらった私は、『筑豊炭坑絵巻』の復刊を考えていた。

山本作兵衛さんが炭坑画を描かれるようになったのが1958年、それに先立つ1957年頃には文章で『筑豊炭坑物語』をノートに書いている。

最初の画集は『明治大正炭坑絵巻』として刊行会から出版された。緑色の表紙、B5判で、初期の墨絵が収められ1963年の刊行である。当時、勤務されていた長尾炭坑の坑主であり、緑戚でもある長尾達生氏などの尽力である。この本は30数年前、私が葦書房に入った頃は、福岡市内の古書店で見つけることが出来た。この本の出版の経緯は『オロシ底から吹いてくる風は 山本作兵衛追悼録』(葦書房、1985年刊)で、甥の仲野森男「作たんおぢの画」に詳しい。

1973年に葦書房によって『筑豊炭坑絵巻』が出版された。図版183点、うちカラー印刷22点、文章は「筑豊炭坑物語」「自筆年譜」「あとがき」を入れ120頁、B5判で上製、貼箱入り、定価4500円であった。4500円の定価は今日で言えば1万円程度の価格であろうか。私は、当時のことは知らないが、よく売れたことは、この出版が創業間もない葦書房の名を高め、基礎を作ったことで分かる。永末さんをはじめ上野さんや菊畑さんの全面的な協力は、制作面だけではなく、販売でも、労働組合は上野さんが、マスコミ関係は菊畑さんが担当して売り回ったということも聞いた。

そして『筑豊炭坑絵巻』を懸命に販売した多くの書店があったであろうと思う。『王国と闇』の時、現物を車に積み、1、2冊の注文をいただいた書店に仮伝票でおろしていく。今日は飯塚、明日は田川といった具合である。夜会社に帰ると、今日おろした書店から追加の注文が入っている。そんなことが何度あったろうか。

読者は、金持ちではない。3万8千円の『王国と闇』を10回や20回の

分割にして買ってくれた読者が多数であった。なによりも筑豊の人々が圧倒的であった。限定1500部をたちまち売り尽くすほどの勢いであった。山本作兵衛の炭坑画を、自分たちのものとして抱きしめてくれた人々がいたのである。

こんな山本作兵衛炭坑画の出版は、

私にとっても「出版」という営みの原点を示してくれたものと思っている。

山本作兵衛さんが「孫たちに炭坑のことを伝えたい」として描いた炭坑画が、今や、石炭すら知らない孫たちにどう受け止められるだろうか。願わくば、上野英信さんたちがいだいた「戦慄」をもって受け止められんことを。

(にし としあき／海鳥社代表取締役)



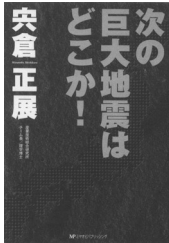
『筑豊炭坑絵巻 新装改訂版』A4判伸寸横開き、288頁、図版192点(カラー120点)収録、上製、ケース入り定価(本体6500円+税)

新刊ダイジェスト

※価格は総額(税込)表示です。



『次の巨大地震はどこか!』 ● 宍倉正展 (シシクラ マサノブ) 著



著者がチーム長を務める産総研活断層・地震研究センター海溝型地震履歴研究チームは、東日本大震災を予測したことで注目を集めている。専門家から科学的データが薄弱として軽視されていた平安時代前期の貞観地震大津波と、以後500~1000年間隔で繰り返されている事象を地質学的に解明。これまでの主流であった地震データ解析に基づく地球物理学的手法の殻を破り、古文書の

分析から津波堆積物の調査に及ぶ綿密な古地震学の成果である。そうした立場から、北海道太平洋沿岸を襲う千島海溝地震の切迫性、今世紀中の東海沖地震、予測が難しい首都圏直下型を指摘し、物心両面の備えを急ぐよう警鐘を鳴らす。

◆1260円・四六判・205頁・宮帯出版社・京都・2011/9刊・ISBN978-4-86366-810-2

『いのち 一街の一木一草 監物博写真集』 ● 監物 博著



アスファルトで舗装された路面の割れ目や、コンクリートで固められた石垣のわずかな窪みに生えている野草を、情景豊かにとらえた写真集である。そんな環境で育っている野草だからこそ、その生命の息吹が強く感じられ、「草木たちが内に秘めたエネルギーがいのちの営みの根拠」と著者は感じ、「写真を撮っておいてあげたい」と

の想いがつり、ついにこのユニークなモノクロ写真集となった。セイヨウタンポポ、ホタルブクロ、メヒシバ、エノコログサ、ススキ、ツククサ、ドクダミ等々、路傍の草木41種45点が掲載され、そのすべてに名前(標準和名)が記されているので、植物好きの人たちにも良い本だ。

◆2000円・250mm×260mm判・93頁・現代写真研究所・東京・2011/8刊・ISBN978-4-903564-11-1

『佐藤優のウチナー評論』 ● 佐藤 優著



外務省のラスプーチンと呼ばれて投獄された著者。独房で母の故郷沖縄の古歌謡集『おもろさうし』を読む。神々が世界の中心である久米島新垣の社に降臨したとの記述に接し、それまで東京、モスクワに置いていた視座を沖縄に移すことで、今まで見えなかったものが認識できるのではないかと考える。太平洋戦争時の集団自決強制は国家の暴力性に他ならず、戦後沖縄社会にもたらされ

ている禍は官僚の論理によるものであると指摘。その上で、基地問題で対案を出すべきではない、大江健三郎『沖縄ノート』裁判では歴史を司法官僚に委ねてはならないなど、沖縄の力で問題解決すべく、ラジカルな「処方箋」を提示する。

◆1800円・四六判・349頁・琉球新報社・沖縄・2011/8刊・ISBN978-4-89742-131-5

『酒とつまみ 第14号』 ● 「酒とつまみ」編集部編



10ヶ月ぶりに出た待望の新号。特集は足掛け4年続いた「山手線一周ガード下酩酊マラソン」。ガード下の店をひたすら歩いて回る企画もこの五反田~東京編でついに最終回を迎え、完走達成記念特集となった。〈酔客万来〉のゲストは『ガロ』でデビューした漫画家・東陽片岡。レモンサワーを片手にムード歌謡が流れるスナックや、熟女の包容力について熱く語るインタビューは閉店時間

ギリギリまで盛り上がり、大成功を収める。もちろん他の連載も好調で、思いつき研究レポートは気が抜けた第4のビールでウマイ銘柄はナンダという笑える報告。酒飲みの心をとらえて離さない内容で、次号にもますます期待がかかる。

◆400円・A5判・80頁・酒とつまみ社・東京・2011/7刊・ISBN978-4-903143-15-6

売行良好書

期間：2011年9月16日～10月15日

[出荷センター扱い] ※税込み価格

- (1) 『未来ちゃん』 2100円・ナナロク社
- (2) 『わたし、少しだけ神さまとお話できるんです』 1470円・文屋
- (3) 『体質と食物』 368円・クリエー出版部
- (4) 『赤いおおかみ』 2415円・古今社
- (5) 『蟬声』 2800円・青磁社
- (6) 『九州発 食べる地魚図鑑』 3990円・南方新社
- (7) 『ベターホームの家族のこんだて』 1260円・ベターホーム出版局
- (8) 『ラストハンター』 1890円・鉦脈社
- (9) 『死の同心円』 1680円・長崎文献社
- (10) 『三池炭鉱「月の記憶」』 1890円・石風社
- (11) 『イザベラ・バードの山形路』 1890円・無明舎出版
- (12) 『近江のかくれ里』 1680円・サンライズ出版
- (13) 『菜食主義者』 2310円・クオン
- (14) 『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』 1365円・書籍情報社



[三省堂書店神保町本店4F—センター扱い図書] ※税込み価格

- (1) 『東京かわら版 10月号』 420円・東京かわら版
- (2) 『未来ちゃん』 2100円・ナナロク社
- (3) 『フリースタイル 16』 932円・フリースタイル
- (4) 『戦国時代の静岡の山城』 2520円・サンライズ出版
- (5) 『夜想 bis #ドール1という身体』 1000円・ステューディオ・パラボリカ
- (6) 『オロシ底から吹いてくる風は』 2310円・葦書房
- (7) 『ヤマの記憶』 3990円・西日本新聞社
- (8) 『80's Romance ミュージック ディスク ガイド エクステンディッド・ヴァージョン』 2079円・カラーフィールド
- (9) 『16世紀世界史におけるトルコ勢力の諸問題』 2415円・あるむ
- (10) 『会津ManMa』 780円・歴史春秋社

[ジュンク堂書店新宿店—センター扱い図書] ※センター出荷データより/税込み価格

- (1) 『ともだちは実はひとりだけなんです』 1680円・ビリケン出版
- (2) 『ami <アミ>』 1575円・ビリケン出版
- (3) 『酒とつまみ 第14号』 400円・酒とつまみ社
- (4) 『夜想 bis #ドールという身体』 1050円・ステューディオ・パラボリカ
- (5) 『原発閉社会』 1260円・機関紙連合通信社
- (6) 『成層圏カフェ vol. 4』 210円・暗黒通信団
- (7) 『女王様挫折記』 315円・暗黒通信団
- (8) 『足と靴とインソールのお話』 315円・ダイナゲイト
- (9) 『バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑』 2730円・北海道大学出版会
- (10) 『神の詩 バガヴァッド・ギーター』 2100円・TAO LAB

以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。本と出版流通のページ：<http://neil.chips.jp/>

トピックス ——— ★★★


▼『ヤマの記憶』

海鳥社の西さんによる今号の1面レポートにある『筑豊炭鉱絵巻 新装改訂版』(6825円)に関連してですが、10月に弊社扱い版元さんでもう一点、山本作兵衛さんの作品集が刊行されています。『ヤマの記憶』(西日本新聞社刊3990円)がそれで、こちらは山本作兵衛さんの晩年に西日本新聞朝刊に掲載された聞き書き『ヤマの絵』計50回と、世界記憶遺産の作品の中から120点を選びオールカラーで収録したものです。炭鉱カメラマンの橋本正勝さんによる炭鉱の写真や山本作兵衛さんのモノクロームのポートレートが挿入されている他、巻頭に詩人の森崎和江さんが「壮大な炭鉱労働記憶画 山本作兵衛さんありがとう」というエッセイを寄稿されています。他に「作兵衛さん縁の地 炭鉱・田川を旅して」(フリーライター・前田亜礼氏)、「地の底を労働した本当の知識人だった作兵衛さん」(福岡県立大学人間社会学部長・森山浩一氏)、「祖父と私」(福岡県飯塚市在住・緒方恵美さん)等々。巻末には山本作兵衛略年譜や最盛時の炭鉱分布図などが付されています。

郵便販売のご注文方法

- ◎お名前、お届け先(郵便番号、住所)、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までFAXでご連絡ください。
 - ◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせていただきます。基本的にメール便は、一冊210円でお送り致します。(メール便の到着は、発送してから3~4日かかります。)お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合わせ下さいませ。
 - ◎なお書籍お買上総計(税抜き価格)が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせていただきます。
- ★地方・小出版流通センター
FAX: 03-3235-6182

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。



三省堂書店

BOOKS SANSEIDO

神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~ 8:00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. <http://www.books-sanseido.co.jp>

**営業の
ごあんない**

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。

